

イヴ・ガーデンのスタッフとして五年間務めたのち、双子の母となり六年のブランクを経て、カラーの講師として教壇に立つ風見さんにインタビューしました。

色で自信がついて、六年ぶりに仕事再開へ、 十代の生徒さんに色を伝えながら将来設計

風見美穂さん（四一歳）

カラーを学んだきっかけは？

都内の短大に通い、就職は地元に戻りました。都内で華やかなOL生活を送る友人たちと比べて、茨城に戻った自分に自信がなく、何か特技を身につけたいと模索していました。そんな時、イヴ・ガーデンの色彩検定対策講座を見つけて、ファッションも大好きだったのでコレだーと思いました。受講を開始したのは、結婚式の三ヶ月前。結婚も目前に控え、妻として、母としての私ではなく、一個人の私として出来る何かが出来た、というののきっかけのきっかけです。

どんな風に学んだの？

色彩検定対策講座からはじめて三級を取得。とにかく色が面白くて、色のカードを見ていただけで幸せ！そのまま色彩検定二級のスタッフとしてお手伝いするようになりました。そして、カラーコンサルタントプロ養成

講座を受講し、難関の色彩検定一級も取得でき、講師として教えるチャンスもいただきました。

毎日、神山先生の下で、生徒さんが色でステキに変わっていく様子をつぶさに見られたことはとても得難い経験でした。自分が生徒として受講していた時には気が付かなかった人への伝え方やキレイになっていく様子など、イヴ・ガーデンでたくさんこのことを得ることができ、今それがとても身になっていくと感じています。

仕事はどんなふう再開？

双子の妊娠、出産、育児で、色の仕事から離れている間も、時間があれば色のことばかり考えていました。テレビや雑誌、インテリアや食卓、子どもとの散歩中、いつも色を観察していました。色の仕事から離れることで、改めて自分は、色が本当に好きなんだ、と実感しました。

子どもたちが幼稚園の年長組にあがり、自分の時間が少しずつ出来るようになって、自分の仕事をしたい、でもサロンを構えて開



業するまでの自信はなく、ブライダルなどに関連する求人を探していました。そして突然チャンスはやってきたのです。一度は不採用となったものの、イヴ・ガーデンの講師としての経験や実績から、美容専門学校に採用がきました。色彩検定一級の資格も活かすことができ、色彩検定として二年目の今年は、週四日教えています。

今後の仕事の展開と目標は？

さらに感覚と色の理論をもっと深めたくて、カラーコンサルタントプロ養成講座の上級講座、レベルIIを二〇一一年から受講しています。今後は専門学校以外でも個人の方を対象に、その人自身が持っている輝きを色で引き出していきたいです。色と人との出会い、ここに来ると元気になれる場所。そして、美容業界に携わる方たちなどが専門的に色を学べる場所を栃木県小山市に持ちたいです。色で変化した人たちの、光が差したような笑顔が大好きです。そこには、色のパワーと人の輝く魅力があふれています。

家庭と仕事のバランスは？

家では、母であり妻の顔になります。色の仕事を再開するまで、自分って何？と私の居場所を見失っていました。色の仕事を再開するようになり、メイクや洋服なども含め、スイッチがきりかわることで、自分の居場所をつくれるようになってきました。子供の手が離れた時、自分出来る何か(色)があったことは本当に嬉しかったです。今は好きなことが仕事になって本当に幸せです。好きなことをさせてもらっている分、主人にも感謝の気持ちを持っています(笑)。そして、色は、子供との向き合い方にも大きく役立つように思います。色との関わりがあることで、家庭でのバラ



- 一九九八年 色彩学3級・2級講座
- 一九九九年 カラーコンサルタントプロ養成講座
- 二〇〇〇年 マイアッププロファンテーション講座
- 二〇〇〇年 色彩学1級講座
- 二〇〇〇年 マイアッププロアドバンス講座
- 二〇一〇年 カラーコンサルタントプロ養成講座 再受講
- 二〇一一年 六月 レベルII
- 二〇一一年 十月 レベルII



所在地 栃木県小山市を中心に活動中
連絡先 090-2738-1207
メール kazamimi@mvd.biglobe.ne.jp

色のチカラと人の笑顔に魅了され、イヴ・ガーデンで約5年間スタッフ兼講師をさせていただきながら、色彩学・パーソナルカラー・ファッションライン・メイクアップ・アートセラピーなどを学び、現在は栃木県小山市を中心に、美容専門学校での色彩指導非常勤講師をはじめ、色と共に活動しております。イヴ・ガーデンで学んだ事、経験させていただいた事のすべてが今に繋がっています。

色には人を輝かせるチカラがあります。そして、人には必ず自分が輝ける色があります。たくさんさんの輝きと笑顔で溢れる今、未来でありますように。そんな思いで、色と人と向き合っていきたいと思っています。